

久留米城下町の絵図 篠山神社所蔵歴史資料より

会期：令和 7 年 7 月 16 日（水）～ 9 月 29 日（月）

有馬記念館 2 階資料展示室

No.	資料名	年代	西暦	作者	品質形状	法量(cm)
1	京隈絵図	江戸時代後期	—	—	紙本着色	26.8×39.8
2	京隈図	江戸時代後期	—	—	紙本着色	47.8×36.1
3	櫛原絵図	文政 3 年	1820	久保姓	紙本墨書	40.3×27.3
4	十間屋敷図	文政 3 年	1820	久保姓	紙本墨書	27.2×39.9
5	庄島小路図	江戸時代後期	—	—	紙本墨書	58.7×42.3
6	柳原御亭絵図	江戸時代後期	—	—	紙本墨書	57.7×90.8
7	使者屋指図	江戸時代 中期～後期	—	—	紙本墨書	25.8×41.0

＊No.1～7は篠山神社蔵(有馬記念館寄託)

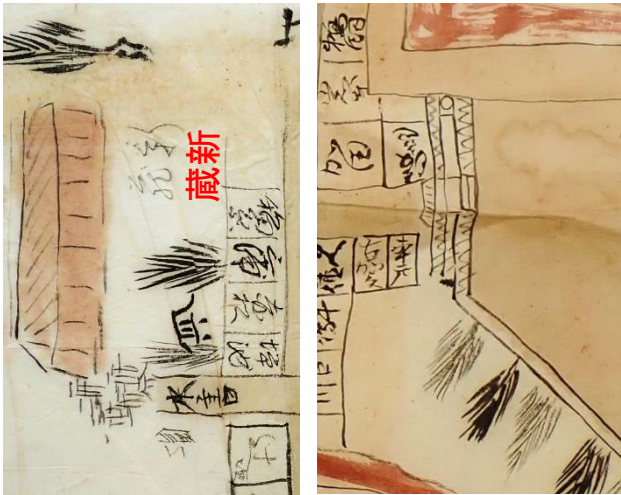
見どころ、知りどころ

本展では、久留米城下町の成り立ちとともに、篠山神社に伝わる絵図を紹介します。

初代藩主有馬豊氏は、久留米城外郭の南面に広がる谷部分を整地して町屋とし、その周りの比較的高地に武家屋敷を建設しました。寛永9年(1632)までに京隈小路(No.1・2)・櫛原小路(No.3)が出来始め、同 13 年頃には十間屋敷(No.4)の建設が開始されました。4代頼元期までに庄島小路(No.5)・鉄砲小路が整備され、水害対策として柳原の武家屋敷が城外に移されました。その跡に藩主の庭園が造られます(No.6)。また町屋にも、使者屋(No.7)などの藩の施設が置かれました。

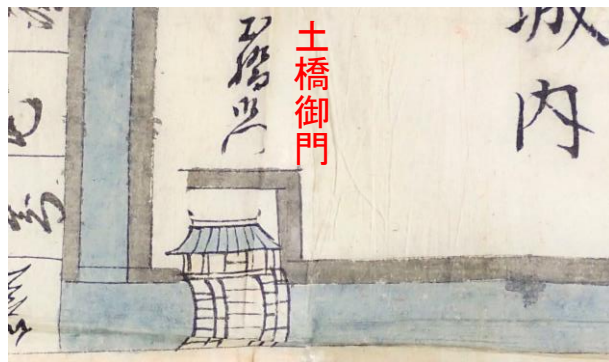
【No.1 京町絵図】

- ①写真左：北中央部分に、藩が享保 20 年(1735)に新設した「新蔵」があります。簡素ながら、蔵の絵が描かれています。
- ②写真右：侍屋敷の各出入り口には門を設け、通行を制限していました。特に広手に面した東辺の門は、低地にある町屋との段差も表現されています。なお、広手は享保 11 年(1726)の田代火事の後には町屋を取り除き、火除け地として設けられました。



【No.2 京隈図】

- ①写真：外郭と京隈小路を結ぶ「土橋御門」が詳細に描かれています。名称と違って、太鼓橋状の木橋もしくは石橋とみられます。
- ②梅林寺(絵図左上部分)の山門が南向きです(現在は東向き)。門前には、瓦を立てて敷き詰めた「瓦坂」が描かれています。



【No.3 櫛原絵図】【No.4 十間屋敷図】

いずれも料紙の隅に「文政三庚辰年五月」「久保姓」などとあり、作成年代・作成者が判明します。

【No.5 庄島小路図】

居住者名から絵図のおおよその年代が分かります。加藤田新八は文政8年(1825)に絵図に描かれた場所(写真内黄色枠)に屋敷地を拝領し、弘化3年(1846)に病死しました。なお、養子の加藤田平八郎は神影流師範で、教授した門人の数は2,828人にも上ったといえます。

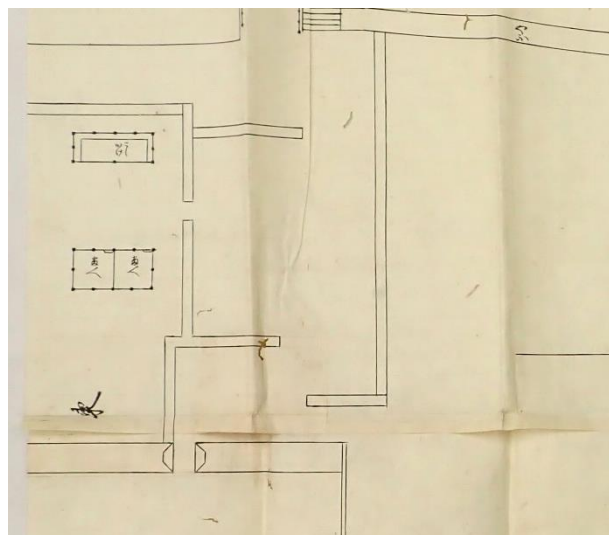


【No.6 柳原御亭絵図】

「柳原御亭」は本丸の北方に所在しました。絵図の南に本丸との間の「御堀」が記されています。東の入り口は、防衛上の工夫で鉤の手に造られています。

【No.7 使者屋指図】

天保元年(1830)、片原町から両替町に移転した使者屋は、東に門が配置されますが、この指図は北に門が描かれており、片原町時代の使者屋に関するものと考えられます。



久留米市公式ホームページでは久留米城下町に関する配布物を掲載しています。

- ① 城下町の重ね地図やその使い方を紹介する動画です。
 - ・【ストーリーシート7】有馬の城づくり、町づくり 其の壱 西部編
 - ・【ストーリーシート8】有馬の城づくり、町づくり 其の弐 東部編
 - ・紹介動画(1)「有馬の城づくり、町づくり」-入門編-
 - ・紹介動画(2)「有馬の城づくり、町づくり」-応用編-登城するの巻
 - ・紹介動画(3)「有馬の城づくり、町づくり」-応用編-痕跡をさがすの巻
- ② 京隈小路跡に残されている文化財の解説です。
 - ・京町校区の見どころ知りどころ 第1回~第8回

